

上田仮説サークルニュース		5月例会	2016.05号
編集責任 遠藤 裕		発行2016.6.25	
〒383-0041 中野市岩船426-3 サカガーデン中野 B-G TEL 0269-23-2847 携帯 090-1406-9115			
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp 勤務先 長野工業高校 TEL 026-227-8555			

5月28日(土) 上田中央公民館 2F 第一会議室



午後 3:00 ~ 7:30

参加者数名 6名

資料総ページ 77 ペ

<参加者> 増田伸夫さん, 柳沢克央さん, 北村秀夫さん, 北村知子さん,
池田みち子さん, 遠藤裕

はじめに 5月例会の参加者は6名。

発表は, 増田さんから3本, 柳沢さんから2本の, 合計5本の発表がありました。

増田さんは<牧: 今のお話>の3本。運動論と歴史に関する内容です。

柳沢さんは, 信毎の新聞記事の紹介と「読書メモ4・5月」。「読書メモ」は44ページの大レポートです。特に小倉昌男著『小倉昌男経営学』(日経 BP 社)の34ページにおよぶ要約は, これを読むだけでこの本を一冊読んでしまったような気にさせてくれます。

秀夫さんは, <簡単に作れるカフェラテ>を紹介してくれました。ペットボトルにインスタントコーヒーの粉末を入れ, 1センチくらいのお湯を加えて泡立つように溶き, 牛乳を加えて完成。手軽にできてとてもおいしいです。以前, 秀夫さんは<今月の料理>を学年通信に載せていて, サークルで紹介してくれていたのですが…。

今回は渡辺さんが「科学史学会」に出席されるということで, 欠席されたせいか, いつもより早めに終わりました。

終了後は, 夢庵が改装中でそれぞれで夕食。

1. 発表資料

① サークルニュース 4月例会 遠藤 裕 (8ペ)

1. 発表資料

① サークルニュース 3月例会 遠藤 裕 (10ペ)

② 「本の紹介」, 「書評」, 「書評の紹介」の三つを一緒に

『本を読む本』柳沢克央さん (20ペ)

③ 読書メモ2016年3・4月 —佐藤優『人間の叡智』ほか— 柳沢克央さん (32ペ)

④ <今月の書評(本の紹介)9> 増田伸夫さん (12ペ)

「世界史もおもしろいじゃないか!」と思わせてくれる本

⑤ <牧: 今月のお話2> 起承転結の運動論 増田伸夫さん (8ペ)

— 牧衷運動論入門 —

⑥ 《不思議な石 石灰石》の授業感想 渡辺規夫さん (1ペ)

2. もの作り<霧箱> 講師: 小林真理子さん, 山本海行さん

<霧箱>作り

<霧箱で観察した放射線の動画や写真><イワシの干物><ドライアイスの液化実験>

② <牧: 今月のお話3> 宇井純理論と牧衷運動論 増田伸夫さん (8ペ)

— 運動に勝利するための「起承転結」運動論 —

(上田仮説出版『教育改革の展望 第4集』「公害闘争の運動論—今日の市民運動と改革運動(2)」より 1978/4 東京で日本化工のクロム禍被害と闘う学生を中心にして行われたシンポジウムでの牧さんの講演記録 1979/11/5 発行 構造改良社『共和国通信』第2号に掲載 テープ起こし・編集:『共和国通信』編集部 再編集・文責:増田)

◇「市民運動」の代表的見解としての宇井理論

◇宇井氏の第一原則—公害問題の「起承転結」

◇運動者のための「起承転結」論(杉野説)

◇宇井純理論の適用範囲/限界

◇真木(牧)の「起承転結」則

①「起」—問題の社会化

②「承」—運動に対する反作用(権威の反論)

③「転」—反作用「承」への反撃

④「転」から「結」へ—社会的認知のための闘争

増田さんの<あとがき>より

真木中のペンネームで『共和国通信』という雑誌に掲載された牧さんの講演記録です。宇井純氏の「起承転結」則と対置する形で、牧衷運動論の有効性が語られています。つい最近、韓国で加湿器に入れる殺菌剤で百人近い犠牲者が出た事件が報道されましたが、その事件の経緯も牧衷運動論に重ね合わせて考えてみてください。(増田)

(社会的な事件が起きたとき、牧さんの「起承転結」運動論で整理してみると、どのように推移していくか予想できそうです。 エドワ)

③ <牧：今月のお話4> 歴史がおもしろくなる秘訣 増田伸夫さん（8ペ）

－自分の頭で歴史を再構成－

（上田仮説出版『牧衷連続講座記録集Ⅲ』「未来の見えてくる歴史学・歴史教育はどうあるべきか」より 1989/9/30 上田市中央公民館にて テープ起こし・編集：渡辺規夫氏 再編集・文責：増田）

- ◇はじめに（社会科学と自然科学）
- ◇歴史を数量的に見る
- ◇なぜ130倍になったのか（自分の頭で再構成）
- ◇問題意識をもとに調べる
- ◇歴史の調べ方と現状分析の共通点
- ◇重商主義と重農主義
- ◇誰かが腹立てると経済学ができる

増田さんの<あとがき>より

自分がギョッとした問題意識をもとに、自分の頭で歴史を再構成する。それが歴史がおもしろくなる秘訣だと、牧さん。確かに、ルーアンという町の水車の数から始まってこのように歴史が次々とつながっていくと、歴史を学ぶことが俄然楽しくなりますね。牧さんの<未来の見えてくる歴史学>は、さらに続きます。

（増田）

（<自分の頭で歴史を再構成する>→<歴史がおもしろくなる秘訣>と増田さん。経済学について、アダム・スミス→マルクス→ケインズの系譜を調べるとおもしろそうです。 エドワ）

④ <牧：今月のお話5> 歴史を動かすもの 増田伸夫さん（8ペ）

－「生産」と「交換」で歴史の筋道が見える－

（上田仮説出版『牧衷連続講座記録集Ⅲ』「未来の見えてくる歴史学・歴史教育はどうあるべきか」より 1989/9/30 上田市中央公民館にて テープ起こし・編集：渡辺規夫氏 再編集・文責：増田）

- ◇労働力が足りなくなったら、待遇改善と機械化
- ◇自助努力ができるような技術輸出
- ◇明治日本が輸入した製糸技術（映画「ある技術の生い立ち」の上映）
- ◇日本の工業化成功の原因①：軍隊的合理主義
- ◇日本の工業化成功の原因②：国内需要と社会の発展段階
- ◇歴史を動かす力（より多くのもを手に入れたい欲望）

増田さんの<あとがき>より

歴史を動かしている原動力は、「人間がより多くのものを手に入れて消費したい」という欲望。それを手に入れる方法は「生産」と「交換」しかない。だから歴史の道筋を見ようと思ったら、「生産」と「交換」を見ればいい、と牧さん。私にも歴史が見えてくる気がします。（増田）

（＜歴史の筋道を見ようと思ったら、「生産」と「交換」を見ればいい。＞牧さんは物事の本質を理解するときのキーワードを発見できる方だったのかと今さらながら思います。 エトワリ）

⑤ 信毎記事の紹介 2億円使途「確認せず」/ 柳沢克央さん（1ペ）

2016年5月17日付けの信毎の記事の紹介。

2020年東京オリンピック五輪招致をめぐる不正疑惑の記事。JOC 竹田会長は約2億2200万円を支払った会社はペーパーカンパニーではないと疑惑を否定、使途については「確認していない」。竹田会長は、広告代理店の電通に照会し、実績を評価して契約した経緯を説明。／コンサル照会 電通が認める

（オリンピックといえば、世界規模の大イベント。目に見えないところで、庶民が想像もできない大金が動いているようです…。 エトワリ）

⑥ 読書メモ2016年4・5月 柳沢克央さん（44ペ）

－『小倉昌男経営学』ほか－

◇はじめに

前回の「読書メモ」と同様、サークルで発表することを目的とすると、読書がはかどるので、このメモを作成することにしました。自身のため、記録を残すことが第一目的です。みなさま、よろしく（適当に）おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり、引用あり、要約あり、感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。

（私物）と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

アドラー他者『本を読む本』（講談社学術文庫）などから学んだことをもとにした読書法により、大胆に本を選別して扱っています。

今回はゴールデン・ウィークがあり、読書時間や要約を作成する時間がいつもよりたくさんとれました。

◇読書記録または読書メモ（おおよそ読了順）

◎加藤典洋著『戦後入門』（ちくま新書 1146・2015年）

◎工藤美代子著『皇后の真実』（幻冬舎・2015年）

- ◎外山滋比古著『読書の方法―〈未知〉を読む―』（講談社現代新書 633・1981年）
- ◎増田伸夫編『今月のお話3』（上田仮説出版・中野本社・2016年・ガリ本）
- ◎成毛眞著『本は10冊同時に読め！』（三笠書房・知的生き方文庫・2008年）
- ◎岩崎夏海著『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『イノベーションと企業家精神』を読んだら』（ダイヤモンド社・2009年）
- ◎小倉昌男著『小倉昌男経営学』（日経BP社・1999年）
- ◎小林忠他編『若冲の描いた生き物たち』（学研プラス・2016年）
- ◎ホヴァート・ヒスリング著・武井摩利訳『世界で一番美しい深宇宙図鑑』（創元社・2016年）
- ◎外山滋比古著『乱読のセレンディピティ』（扶桑社・2014年）（私物）
- ◎養老孟司著『文系の壁』（PHP新書 994・2015年）
- ◎茂木健一郎著『頭は「本の読み方」で磨かれる』（三笠書房・2015年）
- ◎絵と文:本間康司,執筆監修:越田年彦『世界の思想家ガイドブック・覚えておきたい人と思想100人』（清水書院・2014年）
- ◎ADLER & DOREN『HOW TO READ A BOOK』（TOUCHSTONE・1972年）

◇まとめ

通勤のため、週日は毎日往復で40分ほど電車に乗る。この時間が読書時間のほとんどである。電車は私の「動く書斎」になる。ノッているときは平日夕食後や休日に少し、また、学校や駅での電車の待ち時間にも読む。

数年前、作家の林真理子さんが「人間が孤独なとき、唯一サマになる仕草は本を読むことだ」という趣旨のことを書いていたと妻から聞いた。「なるほど、その通りだ」と思ったので今でも覚えている。

電車に乗っている時で、読書が「ゾーンに入って」しまったら、時間感覚が全くなくなる。そうすると電車を乗り過ごすことがあるので、気をつけないといけない。これも数年前、ファインマンの『ご冗談でしょう、ファインマンさん・上』（岩波現代文庫）を読んでいて乗り越したことがある。その時、折り返し電車の待ち時間でまた読書の時間が増えた。「転んでもシメタ」だった。

今回はなぜか読書論関連の本が多く集まってきた。現在、このあたりに私の問題意識があるようだ。来月はドラッカー着『イノベーションと企業家精神』あたりがメインディッシュになりそうな予感。

（小倉昌男著『小倉昌男経営学』について、柳沢さんは「直感的にくこの本は要約するに値する本だ」と思った。要約をしてみても、ますますその意を強くした。仮説実験的認識論、学級運営論、組織論・・・いろいろな分野に共通項が発見できるし、応用して考える材料が揃っている好著だと思った。」と書いています。そういえば、セブンイレブンの鈴木敏文さんにも共通したところがありそうな気がします。仮説関係の人にはおすすめの1冊です。 エンドリ）

あしがき 梅雨の時季のまっただ中、このところだんだん蒸し暑くなってきて、
体調管理に気を遣うところです。職場では、進路用の資料の整理などに追われて
います。6月下旬といえば高校では1学期の期末テストの頃。昔はテスト期間といえば校内
でレクレーションをしたりと余裕があったものですが、今では半日ということではいろいろな
行事が入ったりで、全くゆとりのない期間になってしまいました。テストが終われば答案の
山が……。ゆとりのある学校現場であってほしいと思います。 (エンドウ)



★ 今後の予定 ★

7月16日(土)

8月27日(土)

9月24日(土)